

令和5年度 西東京市立田無第一中学校 学校自己評価表

4：達成率80%以上
3：達成率60%以上
2：達成率40%以上
1：達成率20%以上

A：評価は適切である
B：評価に一部改善が必要である
C：全体的に改善が必要である

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	指標 教員	指標 生徒	成果と課題	学校関係者評価欄	
							総合評価	ご意見
学びに向かう力	主体的・対話的で深い学びの授業改革を重視し、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力、人間性を養う。	生徒が学習意欲をもって自主的に取り組む姿勢を養う。	生徒の興味を引き出し、対話的な学びを通して、実生活に生かせる知識や技能を身に付けられるような授業を展開する。	4	4	教員のアンケートでは、生徒の興味や意欲を引き出せるよう工夫できたと自信をもって回答する教員が10ポイント以上増加した。生徒の回答においても90%近くが肯定的に回答している。授業がわかる、できるという生徒の自己肯定感につながるようさらに工夫を取り入れていくことが必要である。	A	今後も丁寧な取組に期待する。様々な生徒に対応できるよう、また、指導する教員により差が生じないように、校内での研修を充実させ、個に応じた指導ができるようさらなる工夫を取り入れ、授業改善につなげてほしい。
		生徒が学習の目標・課題を意識し、見通しをもち、主体的に学習を進める姿勢を養う。	単元のねらいを明確に設定し、その解決に向けた授業が実施されるよう教職員の研修を充実するとともに授業改善を行因。	4	4	教員のアンケートでは、90%以上が肯定的な回答であった。一方、生徒の回答では肯定的な回答が80%を超えているが、否定的回答が10%を超えている。生徒の実態を把握し、授業研究を行い、授業改善を具現化できる教員を育成する必要がある。校内において、授業に関する研修を行っていく。	A	生徒は落ち着いて授業を受けており、生徒の満足度は高いが、生徒一人一人の声に耳を傾け、実態を把握していく必要がある。教員の研修をさらに深めていき、授業改善を具現化できることを期待している。
		学習課題に向けて、「個別最適化学習」を実現し、個々の資質能力の効果的な育成を図る。	単元計画において、個々の学習ニーズに応じた学習を行えるよう、工夫を取り入れた授業計画を図る。	3	3	教員のアンケートでは、肯定的な回答が80%を超えているものの、否定的な回答が20%を超えている。また、生徒の回答では、肯定的な回答が80%を下回っている。授業で学習した内容を家庭での学習習慣につなげていけるよう、個に応じた指導や支援を一層充実させていく必要がある。	A	教員・生徒によって差が生じないように、一人一人の生徒の実態を把握し、個に応じた指導の充実を期待する。家庭での学習習慣づくりへもつながるような指導も行ってほしい。
人間関係形成力	いじめ防止対策推進条例に基づき、いじめ防止対策の徹底と家庭・地域との連携のもと、いじめ問題克服に向けての取り組みを行う。	道徳の時間を中心に思いやりの心や規範意識等を身に着けるとともに生命尊重教育の充実を図る。	教育活動全体を通して、望ましい生活習慣を身に付け、正しい判断に基づき行動できるようにする。	4	4	教員のアンケートでは、肯定的な回答が約82%と前回の調査から約18ポイントと大きく下回る結果となった。生徒の調査では90%を超える生徒が肯定的な回答であり、規範意識に対する意識の違いが見られる。生徒ができていない部分は認めながら、教員が十分であると感ずる点については、行事や学級指導等すべての教育活動を通して伝えていく必要がある。	A	生徒の声から学校の決まりの見直しを行っているのは、とてもよいと思う。教員からの厳しきだけの指導ではなく、生徒とのよい関係作りを行う中で、生徒を認めながら、引き続き指導を行ってほしい。
		道徳の時間において、人としての生き方を考えさせ、実践できる力を育成し、自他の生命を尊重する態度を高める。	道徳推進教師を中心に、地域と連携して指導内容の充実を図る。人としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲、態度を育てる。	4	4	生徒のアンケートでは、約92%が肯定的な回答であった。道徳の授業を通して、前向きに取り組めたことが現れている。一方、教員の回答では、約82%であった。教員が自信をもって授業を行い、生徒の成長を把握し、指導の効果が日々の生活の中で実感できるよう、道徳推進教師を中心にさらに研修を深めていく必要がある。	A	道徳授業の中で、教員自身の経験談などの話がとても温かかったと感じた。生徒同士の意見交換の場面において、様々な価値観に触れ、互いを認め合う雰囲気作りもできるので、さらにここで学んだことを日々の生活の中で、活かしてほしい。
		良好な関係を築き、いじめのない環境の中で、安心して学校生活が送れるようにする。	人権課題に関する学級での話し合い等を行い、人権教育の推進を図るとともに、自他の良さを認め合える生徒の育成を図る。	4	4	教員・生徒のアンケートでは、肯定的な回答が約80%を超える結果であったが、否定的な回答が生徒については約10%、保護者については約25%であった。深い生徒理解に基づき生徒指導を推進し、いじめ撲滅と予防に向け、毎月アンケートを行い、情報収集と早期の対応を図っていく。「西東京あったか先生」の取り組みを推進し、人権について考える機会を設ける。	B	いじめはほんの小さなことから大きく発展することがある。そうならないよう日々の生活の中で教員にはアンテナを高くし、生徒たちの様子を把握してほしい。また、ちょっとした変化に気づいた際には、素早く対応をしてほしい。
健康増進力	健康等に関する取り組みを充実させ、健康と体力づくり、健康保持増進につながる取り組みを充実させる。	健康で安全な生活を営む力を育成するなど、健康教育を充実させる。	体育の授業や保健委員会の啓発活動等を通して健康や体力向上に関心を持たせる。また、食育の推進により心身の健康の維持に関する指導を行う。	4	4	教員のアンケートでは、約81%が肯定的な回答であった。一方、自信をもって支援・指導できたと回答した教員は約7%にとどまっている。生徒が自分自身の健康に興味をもち、意識して生活が送れるよう、心身の安全・健康の保持増進に関する指導の充実を図る必要がある。	A	中学生のこの時期は、体が大きく成長する時期で、自分自身の体に関心をもつてもらいたい。学校での健康教育におおいに期待したい。学校管理下でのけがについては、教員の意識をさらに高め、けがが起こらないよう安全点検を行ってほしい。
		教育相談を充実させ、生徒理解を深め、生徒一人一人が安心して学校生活を送れるようにする。	各学期に相談週間を設定し、教育相談やガイダンスの機能の充実を図る。アンケートを行い、早期の対応を図る。	4	4	全てのアンケートにおいて、肯定的な回答が85%を超えていた。10%未満ではあるが否定的な回答があることに目を向け、誰もが安心して学校生活を送れるように、設定されている相談週間だけでなく、いつでも相談に対応できるような組織体制を整える必要がある。	A	誰もが安心して学校生活を送れるよう、いつでも相談できる体制の構築を期待している。また、担任だけでなく、学校全体で生徒理解を深め、スクールカウンセラーの活用も視野に入れ、生徒の支援を行ってほしい。
		生徒に達成感・成就感を味わわせる指導を充実させ、生徒の自尊感情や自己肯定感を高める。	各行事において、生徒による実行委員会を組織させ、生徒一人一人に責任と協力的な態度を育てる。	4	4	生徒のアンケートでは、肯定的な回答が90%を超える結果であった。行事等に積極的に参加し、取り組める生徒が多くなることがわかった。一方、否定的な回答をした生徒が約9%であった。生徒主体の行事を通して、生徒が自ら企画・運営し、生徒が積極的に参加し取り組める場面を多く取り入れ、自らの役割を責任もってやり遂げられるよう支援・指導する体制を整える必要がある。	A	運動会での係生徒の動きがとてもよく、指導が行き渡っていると感じた。生徒の表情をみても、とても生き生きと活動しており、生徒にとって充実した行事となっていることがわかった。引き続き、生徒が主体となって取り組める、魅力ある行事作りを期待している。
社会参画力	総合的な学習の時間などを通して、地域や社会に関心を持たせるとともに、人権や環境問題などの課題解決に向けて、自ら行動を起こすなど、地域社会の未来を考える力を養う。	横断的・総合的な学習を行うことを通じて、よりよく課題を解決し、自他の生き方を考えていく資質・能力を育成する。	各学年で地域と連携した学習を計画するとともに、探求課題を設定し、地域への愛着、地域社会へ参画する態度を育てる。	4	4	教員のアンケートでは、約78%が肯定的な回答であった。今年度は「西東京ふるさと探究学習」として様々な地域の方々の協力をいただき授業を実施した。一方保護者については肯定的な回答が約72%であった。総合的な学習の時間を保護者や地域に公開したり、学校だよりや学年だより等で発信したりするなどして、理解を深めてもらえるような取り組みを行っていく必要がある。	A	学年に応じて、地域と連携した工夫のある学習を進めていると思うが、保護者の理解が得られるよう、学校だよりやホームページを活用して発信をしていくとよいと思う。職場体験は、中学生にとってとても貴重な体験なので、充実した取組になるよう願っている。
		道徳との関連を図り、地域社会に貢献する態度を育成する。	ボランティア活動に参加することを通して、よりよい社会を築いていこうとする意欲、態度を育てる。	3	2	全ての設問において、最も肯定的な回答が少なかったものである。今年度より、地域からのボランティア活動の依頼が再開し、生徒がボランティア活動や地域の活動に参加できる機会が増加した。校内でのボランティア的な活動の取り組みを充実させ、さらに社会と関わる姿勢や社会に貢献する意欲や態度を養成していく必要がある。	A	ボランティアは特別な活動ではなく、日頃行っている清掃活動や挨拶など思いやりのある小さな行動もすべてボランティアにつながることを意識できるとよいと思う。また、多くの生徒が参加できるような校外でのボランティアの機会の充実を期待する。
特色ある教育活動	デジタル・シティズンシップ教育を通して、デジタル技術を効果的・積極的に活用し、一市民として共同し、社会参画できる生徒の育成に効果的な指導を行う。	タブレット端末等を活用した授業改善やデジタルドリルの活用推進など、授業を通してタブレットを活用する場面を設定する。	タブレット端末等を活用した授業改善やデジタルドリルの活用推進など、授業を通してタブレットを活用する場面を設定する。	3	4	生徒のアンケートでは、肯定的な回答が約90%という結果であった。今年度、西東京市の研究指受を受け、「デジタル・シティズンシップ教育」の研究を進めており、生徒にはある程度浸透していることがわかる。一方教員の回答では、約65%にとどまっている。これまでの情報モラルという視点ではないデジタル機器の効果的な活用について研究を深めていき、指導の充実を図っていく。また、「デジタル・シティズンシップ教育」において培った力を、各教科の学習において活用できるよう、授業改善を図っていくことが必要である。	A	タブレットの活用が進み、デジタル機器が生徒の生活には欠かせないものとなってきているを感じる。タブレットが導入されてから数年たち、不具合が起こることが多くなってきているので、メンテナンスを行ってほしい。「デジタル・シティズンシップ教育」の研究で取り組んでいることが、各教科の学習において活用できるよう、授業改善につなげてほしい。
		インターネットの便利さと健康のバランスを保ち、メディアを活用する能力を養う。	メディアバランスのとれた生活や自分自身の健康を考える動機付けを行う。	3	4	教員のアンケートでは、肯定的な回答が、前回の調査から12ポイント上回る結果であった。主幹教諭による業務精選のためのアンケートにより業務改善・意識改善につながったと考えられる。一方肯定的な回答が約33%だったことにも目を向ける必要がある。業務が一部の教員に偏らないよう組織のあり方を見直していく。	A	教員の率直な意見を聞くことができたことは、とてもよかった。学校だけでは解決することが難しいと思うが、教員でなくてもできることは地域や外部の人材の活用を進め、教員でなければできないことに注力できる環境を作っていく。教員が疲弊しないような環境作りを期待する。
業務改善・働	勤務時間、健康管理やワークライフワークバランスを意識した働き方を推進する。	業務改善について教職員の意識改革を図る。	ワークライフバランスについて、自己申告に具体的な目標を示し、実現に取り組む。	3	4	教員のアンケートでは、肯定的な回答が、前回の調査から12ポイント上回る結果であった。主幹教諭による業務精選のためのアンケートにより業務改善・意識改善につながったと考えられる。一方肯定的な回答が約33%だったことにも目を向ける必要がある。業務が一部の教員に偏らないよう組織のあり方を見直していく。	A	教員の率直な意見を聞くことができたことは、とてもよかった。学校だけでは解決することが難しいと思うが、教員でなくてもできることは地域や外部の人材の活用を進め、教員でなければできないことに注力できる環境を作っていく。教員が疲弊しないような環境作りを期待する。
		勤務時間の管理を徹底する。	在校時間が週55時間を超えない。有給休暇10日以上取得する。	3	4	教員のアンケートでは、肯定的な回答が、前回の調査から26ポイント上回る結果であった。上記のアンケートにより意識改善につながったと考えられる。しかし、週55時間を超えて勤務している教員が約25%もいることから、さらに業務の見直しと改善を行い効率化を図っていく。	A	教員の率直な意見を聞くことができたことは、とてもよかった。学校だけでは解決することが難しいと思うが、教員でなくてもできることは地域や外部の人材の活用を進め、教員でなければできないことに注力できる環境を作っていく。教員が疲弊しないような環境作りを期待する。